短期連載

新研究所紹介シリーズ

Short term series 01

防衛イノベーション科学技術研究所の概要

防衛装備庁　防衛イノベーション科学技術研究所
研究統括官
南　亜樹

はじめに

防衛イノベーション科学技術研究所〔Defense Innovation Science and Technology Institute（以下、「DISTI」という）〕が昨年10月に発足して半年が経ちました。最先端の科学技術を探求し、常識を覆すブレークスルーへ挑戦し、防衛イノベーションを起こすために何を行わなければならないか、自衛隊や外部から有識者を招き研究所全体で議論を続けてきました。まずはDISTIの特徴、組織、取組の概要について述べ、最後にDISTIが今後目指していくイノベーションによる変革についても展望を述べたいと思います。

DISTIの組織、方向性、取組

DISTIの組織は**図1**に示すとおりです。様々な技術の情報収集や対外発信を含むシンクタンク的活動を担う方針策定ユニット、ブレークスルー研究を担う事業推進ユニット、安全保障技術研究推進制度の運営を担うプログラム管理官、事務全般を担う総務・会計ユニットで構成されています。

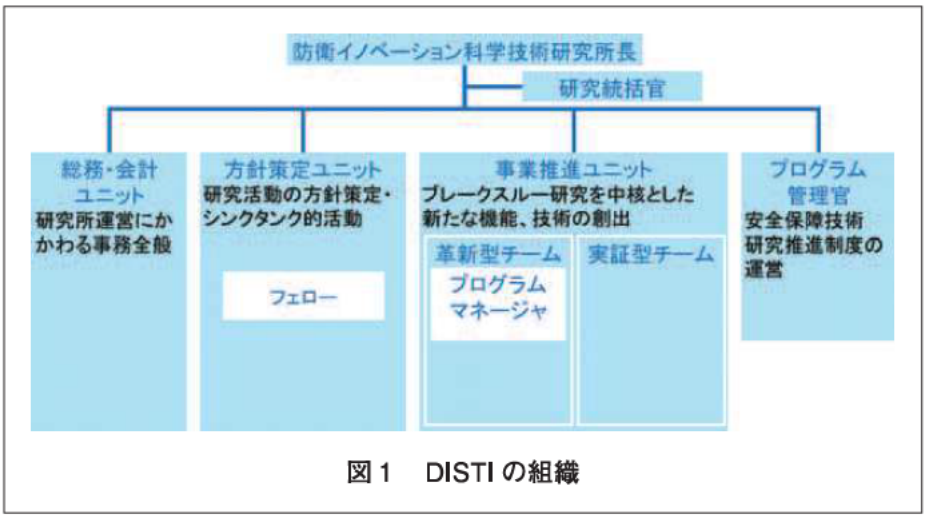

図1　DISTIの組織

DISTIの特徴は、外部人材を積極的に活用していることです。従来の防衛研究開発の関係者では、どうしても既存の概念にとらわれがちです。また現在は民生の方が最先端の技術をいち早く実用化している場合も多いため、民生の最先端技術に詳しい外部の研究者を積極的に活用することが必要です。そのため、約70名の内部の職員に加え、DISTIの特徴である外部から採用されたプログラムマネージャ10数名が所属しています。更に職員ではありませんが、フェローも外部の人材から構成されています。

DISTIの取組の方向性を**図2**に示します。図に示すように革新的なチャレンジ、それを実現する制度、産学官連携により叡智を結集するコミュニティー形成などの観点から、既存の研究開発の枠組み・思考からの脱却、イノベーションを起こす仕組みの構築を目指していきま

す。DISTIの創設は、防衛装備庁が目指す安全保障研究開発エコシステムの構築に向けた対応策の第一歩であり、コミュニティを変えていくためのトリガーとなり得る仕組みを構築していきたいと考えています。

次に、DISTIの機能に関する概念図を**図３**に示します。

・シンクタンク的活動により、優先すべき先進的な研究分野の方向性を得て
・安全保障技術研究推進制度により、基礎研究への投資を実施
・革新型ブレークスルー研究により、チャレンジングな研究を進めるとともに
・実証型ブレークスルー研究により、先端民生技術を活用し早期装備化を進めます。

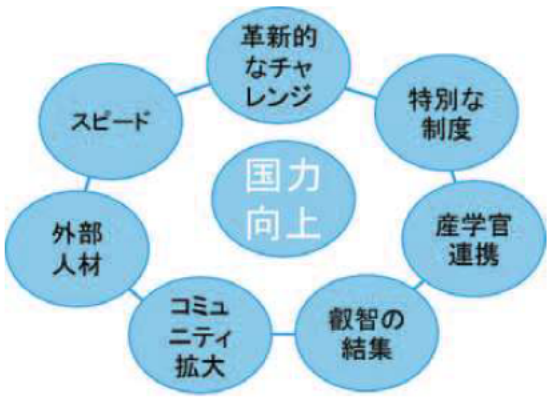

図２　取組の方向性

全体として防衛・民生のいずれにも活用されるイノベーションによる変革の創出を目指します。

各機能についてもう少し詳しく説明します。安全保障技術研究推進制度は最も基礎的で先進的な研究を発掘、育成するための制度で、装備庁の設立以来続けている取組です（**図４**）。これは、防衛分野で将来における研究開発に資することを期待し先進的な基礎研究を公募するものです。

対象とする研究テーマを提示した上で研究課題を公募し、外部有識者である安全保障技術研究推進委員による審査の上、採択する研究課題を決定します。研究成果については、公表を制限することはせず、広く民生分野で活用されることも期待しています。研究者から広く応募を得るため令和７年度に委託費に加え補助金を新設する予定です。

革新型ブレークスルー研究は、**図５**に示すように外部の優秀な人材をプログラムマネージャとして迎え、挑戦的な目標を設定し、これまでの延長線上でない革新的、画期的な機能・技術の創出に向け、リスクを取って果敢に挑戦していく新たな取組です。プログラムマネージャが、民生の有望な研究者・技術を見出し、統括、

図３　DISTIの機能に関する概念図